岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター

かだる

シニアの社会参加情報誌

KADARU

2013.3月

春号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

フォークダンスで笑顔を取り戻し、再出発！

大槌フォークダンス同好会（大槌町）

大槌フォークダンス同好会（中村百合子会長、会員15名）は、フォークダンスを通じた高齢者の生きがい、健康づくりを目的に、平成8年4月に結成しました。会員の多くは、平成7年5月、町が主催した安渡公民館（旧安渡小学校、現在は仮設）学習活動のフォークダンス講座の受講者です。もともとは、高齢期の体力づくりのためにという動機で講座に参加しましたが、回を重ねるうちにフォークダンスに魅了され、講座終了後も継続していきたいという受講者の思いから結成につながりました。結成後は愛好者も加わり、講師の指導を受けながら活動してきました。

しかし、23年3月の東日本大震災で主会場の安渡公民館は流出し、音響機器、音源、教材等も全て流され、さらに会員の多くが被災しました。震災後、会員はそれぞれ仮設住宅で暮らすことを余儀なくされ、会長夫妻が行方不明になったということも重なり、会の活動は1年以上止まったままでした。

フォークダンスをする会員の皆さん

このような中、岩手フォークダンス支部や各方面の支援を受け、24年9月から活動を再開しました。会長は、活動の中心的な役割を担っていた中村さんが後任を務めることになりました。活動回数は、月2回（第2・4水曜日）。会場は仮設住宅の集会所を使用。「震災前も仲間と手を取り合って踊っていた時は楽しかったが、今こうして再び仲間と踊り、手をつなぐことは、以前とは違う意味で、格別の喜びがある」と会員は話しています。

中村会長は、「当時の会長夫妻はいまだ行方不明で、会員の多くは完全に再出発できているわけではない。しかし、時間が経過する中で少しづつ前を見て進めるようになってきた。今後は他団体との交流を増やし、震災前と同様の状態に戻すため、2か月に1回は交流事業を行い、地域に貢献できる体制を整えたい」と話しています。

大槌フォークダンス同好会の皆さん

盛岡市で、「いきいきシニアライフセミナー」を開催

平成25年2月19日（火）、いわて県民情報交流センター（アイーナ）・812研修室でいきいきシニアライフセミナー「地域において期待されるシニアパワー」を岩手県男女共同参画センターとの共催で開催しました。

当日は盛岡市と近隣町村などから約100名が参加。講師は、㈱高田自動車学校代表取締役社長、けせんきらめき大学学長などの田村満さんで、「3.11から学んだこと～シニアパワーへの期待」と題した講演がありました。

講演で田村さんは、自身の会社が目指すところは社会的に評価され末永く存続する「小さな一流企業」であり、震災後、会社の経営が大変な中でも一人の職員も解雇しなかったこと、自衛隊、警察等の緊急援助隊への土地や宿舎の提供、避難所への物資供給を行ったことなど、「会社は地域があるから存在する」との信念で地域の救済に全社を挙げて尽力したとのことです。「3.11は人生が変わってしまった日」であると話され、震災前と震災後の陸前高田市の市街地を写真で示しながら、震災後、人口が減少し、復興後の姿がなかなか描けない中で、今後の市の進む方向として、若者を中心に、一次産業から二次・三次産業までを融合させた六次産業化により付加価値を高めて行く重要性を話されました。また、震災の中でも秩序を保ち行動する日本人の素晴らしさに感動した米国の女学生の例などに触れながら、シニアの役割としてお願いしたいこととして、日本はインタンジブル（無形の資産）の宝庫であり、シニアが持っている日本人の「美を求める心」や「平和を尊ぶ心」「道徳心」などの無形の文化を若い人たちに伝え教えてほしいと述べたほか、シニアの積極的な活動への参加を呼びかけていました。

オカリナ演奏をする高橋純子さん

講演を行う田村満氏

講演の後は、県などの生涯学習指導者で矢巾オカリナ教室を主宰している「音楽（おと）のたね」の高橋純子さんのオカリナ演奏があり、童謡から歌謡曲まで幅広いレパートリーにわたる14曲の演奏がありました。

参加者からは、講演には「日本人の美しい心、豊かな心を忘れていた。心に残る話で時間が足りなかった」、オカリナ演奏には「音色に心が洗われる思い、美しい音色に感動した」などの声がありました。

書籍紹介

55歳からのハローライフ　村上 龍 著　幻冬舎

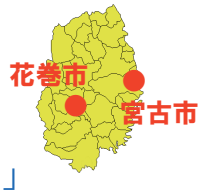
本書は、地方新聞に掲載された5つの中編小説。登場する人物に共通するのは、50代、60代という人生の後半にさしかかった男女。人生の次のステージへ、どのように向かっていくべきかが、5つの物語、それぞれの視点で描かれている。

リストラされて経済的に困窮する54歳の男性を描いた「空を飛ぶ夢をもう一度」、62歳のトラック運転手の恋を描いた「トラベルヘルパー」、早期退職をした夫が妻に旅行の話を持ちかける「キャンピングカー」、愛犬との別れを描いた「ペットロス」など。

不安な現実を突き付けられながらも、新たな道を探ろうと前に進み、「再出発」を試みようとする姿が描かれている。

地域の話題

県内各地で活動している高齢者を中心とした団体を紹介します。



輝きの会　（宮古市）

「木目込人形制作を通じた高齢者の生きがいづくり」

輝きの会（岩田博子会長、会員 20 名）は、木目込人形制作などの伝統工芸を通じて、孤独になりがちな高齢者に、仲間づくりの場を提供しようと、平成 13 年に宮古市の高齢者が中心となって結成されました（木目込とは、木製の人形に彫られた筋に目打ちなどで布の端を押し込むこと）。

結成後は、木目込人形の普及活動、干支づくり講座の開催、お地蔵さんづくり講座の開催などを行ってきました。震災以後は、これまでの活動に加え、被災者支援を行っています。宮古市内のほか、山田町、大槌町、釜石市の仮設住宅に住む高齢者を対象に「干支飾りづくり」の共同作業を行いました。震災により肉親などを亡くして気落ちしている高齢者に「干支飾りづくり」を通じて楽しい時間を過ごしてもらい、社会復帰への足がかりになってもらえれば、という願いから行っています。参加者は、「参加した皆さんと楽しい時間を過ごすことができて、とても良かった」といった感想を述べています。

公民館で木目込人形の制作に取り組む住民の皆さん

木目込人形（今年の干支「ヘビ」）

岩田代表は、「これからも、地域の皆さんにお役に立てる会として活動を続けていきたい」と話しています。

（この事業の一部に、（公財）いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

若くない会　（花巻市）

「高齢者の豊富な経験を地域のために役立てたい」

若くない会（山本純雄会長、会員 21 名）は、花巻市石鳥谷町八幡の高齢者が中心となって、平成 13 年に結成しました。「楽しく生きよう」をスローガンに、高齢者の豊富な人生経験を地域のために生かしていくことを理念に活動しています。

これまで行ってきた主な活動は、地域間のスポーツ交流、地元農家と消費者の集い、地域の清掃活動等です。東日本大震災以後は、他県の団体と連携した、被災地の清掃活動などです。

今年度からは、ソバづくりを通じた地域の交流活動を始めました。この活動は、地域の各世代の住民が参加することで、住民同士の連帯感、支え合いの意識を生み出していくことを目的に実施しています。参加した住民からは、「高齢者と接する機会の少ない子ども達が、高齢者が行う農作業や様々な技術を目の当たりにして、尊敬の念を抱いていた」「このように交流できる機会がめったにないので、このような機会は大事なことだと感じた」などの感想が寄せられました。

ソバの収穫を行っている様子

若くない会の会員と住民の皆さん

事務局の鎌田勇さんは、「地域は心のよりどころであってほしい。そのためにも、我々の活動が少しでもその役に立ってほしいと考えている」と話しています。

（この事業の一部に、（公財）いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

滝沢村睦大学（学長：村長　柳村典秀）は、60 歳以上の村民を対象に、高齢期の生きがいづくりを支援するため、昭和 59 年に村が設置しました。平成 20 年からは、滝沢村社会福祉協議会が村から受託し、大学の運営にあたっています。現在の在籍者数は 912 名で、近年はほぼ 900 人台で推移しています。毎年度継続して受講することが可能で、最高齢の 93 歳の受講者は設置当初から受講しています。

同大学は、前年度の 2 月～ 3 月に生徒を募集し、4 月～ 3 月の 1 年間開設します。受講料は無料ですが、所属する教室の自治会費として年間 2 千円程度が徴収されます。また、受講日には、受講者の通学の便を確保するため、村内を循環する福祉バスを運行させています。

講座は「趣味の教室」と「教養講座」の 2 コース。「趣味の教室」は、民謡や絵画、スポーツなど 28 分野の中から希望する教室を選択できます。人気が高い教室は卓球、歌謡、歴史などです。開催日は、一部の教室を除き、毎月 1,2 回（月・水・金曜日のいずれか）。会場は、老人福祉センター、公民館など村内の 6 施設を使用します。「教養講座」では、一般村民も受講対象者に加えます。5 月～ 11 月までの毎月 1 回、外部から講師を招いて、文学や健康、植物、生活に関することなどを学びます。このほか、年 1 回の校外学習（村外視察）、学習成果を発表する学園祭などを行っています。大学の運営については、受講者の自主性に重点を置いて行っています。その例として、年間計画や行事は各教室の代表者の意見を取り入れて企画すること、各教室の運営は受講者が役割分担をして行っていることなどです。受講者の中には、被災地や老人ホーム等の施設に出向いて、手品や紙芝居による慰問活動を行うなど、学習によって得た知識を積極的にボランティア活動に生かしている方もいます。

民舞を行っている様子

ちぎり絵の様子

今後、同大学は、村内の大学（岩手県立大学、盛岡大学、岩手看護大学）との連携交流事業や大学院の開設を予定し、さらなる運営の充実を図ることとしています。

事務局を担当する北條勝英さんは「睦大学で仲間とともに楽しく学んで、元気に生き生きと暮らしてもらいたい。そして、学習の成果は大いに社会に生かしてもらいたい」と話しています。

睦大学の概要

区　分	内　容	開催日	対象者
教養講座	文学、健康、植物、音楽から生活に関することまで	5 ～ 11 月の第 2 月曜日全 7 回	全受講者、一般村民
趣味の教室（全 28 講座）	民謡、民舞、新舞踊、囲碁・将棋、ちぎり絵、大正琴、手芸、藤細工、生花、昔語り、太極拳、ダンス、唱歌、水墨画、文学、習字、歴史、ペン習字、絵画、パッチワーク、着付け、歌謡、卓球、能面、染色、ニュースポーツ、手品、詩吟	4 ～ 3 月の月曜、水、金曜日、月 1 ～ 2 回（一部、毎週実施する教室もあり）	希望する教室を選択した受講者（複数選択可）

この情報誌は、高齢者の方々の生きがいづくり、社会参加活動を進めるため、県内の各市町村（役所・役場）、公民館、病院などに配布しています（1,400 部発行）。

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター　平成 25 年 3 月 10 日発行
〒 020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階　tel 019-606-1774　fax 019-606-1765
E-mail　koreisha-hfk@aiina.jp　URL　http://www.aiina.jp/advancedage/index.html
岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。
〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30　tel 019-604-8862　URL　http://www.hfk.or.jp/